

2023年度町田市教育委員会

第1回臨時会会議録

- 1、開催日 2023年8月17日
- 2、開催場所 町田市庁舎三階 第一、二、三会議室
- 3、出席者
- | | |
|-------|---------|
| 教 育 長 | 坂 本 修 一 |
| 委 員 | 後 藤 良 秀 |
| 委 員 | 森 山 賢 一 |
| 委 員 | 井 上 由 奈 |
| 委 員 | 関 根 美 咲 |
- 4、署名者
- 教育長
委 員
- 5、出席事務局職員
- | | |
|------------------|---------|
| 学校教育部長 | 石 坂 泰 弘 |
| 生涯学習部長 | 佐 藤 浩 子 |
| 教育総務課長 | 高 田 正 人 |
| 指導室長 | 大 山 聡 |
| (兼) 指導課長 | |
| 指導課統括指導主事 | 末 原 久 志 |
| 教育センター所長 | 横 山 隆 章 |
| 教育センター統括指導主事 | 鈴 木 和 宏 |
| 小学校教科用図書調査協議会会長 | 清 水 淳 |
| 小学校教科用図書調査協議会副会長 | 山 本 正 則 |
| 小学校教科用図書調査協議会副会長 | 小 澤 新 也 |
| 書 記 | 中 里 典 子 |
| 書 記 | 馬 目 拓 実 |
| 書 記 | 阿 部 榛 果 |
| 書 記 | 齊 藤 華 子 |
| 書 記 | 板 垣 有美子 |
| 書 記 | 厚 地 正 和 |

書 記
速 記 士

山 田 直 輝
帯 刀 道 代

(株式会社ゲンブリッジオフィス)

6、提出議案及び結果

議案第14号 2024年度使用教科用図書（小学校）の採択について 原 案 可 決
議案第15号 2024年度使用教科用図書（中学校）の採択について 原 案 可 決
議案第16号 2024年度使用教科用図書（特別支援学級）の採択について
原 案 可 決

7、傍聴者数 25 名

8、議事の概要

午前10時00分開会

○**教育長** 開会に先立ちまして、事務局から案内がありましたように、傍聴者の皆様には、円滑な会議ができますようにぜひご協力をお願いいたします。また、町田市教育委員会傍聴人規則第5条に基づきまして、会議中の撮影・録音は禁止となっておりますので、これにつきましてもご理解いただきたいと思います。

それでは、ただいまから町田市教育委員会第1回臨時会を開会いたします。

本日の署名委員は森山委員です。

日程第1、議案審議事項に入ります。

議案第14号「2024年度使用教科用図書（小学校）の採択について」を審議いたします。本件については、学校教育部長からご説明を申し上げます。

○**学校教育部長** 議案第14号「2024年度使用教科用図書（小学校）の採択について」、ご説明いたします。

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条並びに同法施行令第14条及び第15条、町田市立小・中学校教科用図書採択要綱の規定により、2024年度使用の小学校の教科用図書を採択するものでございます。

町田市立小・中学校教科用図書採択要綱に基づき、教科用図書調査協議会を設置し、採

択に必要な事項を調査・協議いたしました。2023年度町田市教育委員会第5回定例会における本協議会からの報告を踏まえ、教科用図書について採択するものでございます。

1枚おめくりください。

2024年度町田市立小学校使用教科用図書採択候補一覧でございます。国語は3社、書写は3社、社会は3社、地図は2社、算数は6社、理科は5社、生活は6社、おめくりいただきまして、音楽は2社、図画工作は2社、家庭は2社、保健は6社、英語は6社、道徳は6社候補がありますので、それぞれ採択していただきます。

説明は以上となります。

○教育長 以上で説明が終わりました。

これより質疑に入ります。ただいまの説明に関しまして、何かご質問などございましたらお願いいたします。――よろしいですか。

それでは、質疑を終了いたしまして、採択に入りたいと思います。

まず、採択本の決定方法については、いかがいたしましょうか。

委員の皆様から特になければ、私からご提案を申し上げたいと思います。

採択の方法につきましては、基本的に2020年度に行った中学校の教科書採択や2019年度に行った小学校の教科書採択の際にとった方法と同様に、無記名投票による方法をとりたいと思っております。

既に先般、8月4日の教育委員会第5回定例会の際に、教科用図書調査協議会からの報告を受けておりますので、その報告内容も踏まえて、委員の皆様がそれぞれのお考え、ご意見を述べられた後に投票するという形にしたいと思います。

なお、これも前回と同様ですが、教育長と教育委員は合わせて5名でございますので、投票の結果、過半数、つまり、3票以上を獲得すれば、その教科書が採択されることになります。また、いずれの教科書も投票数が過半数に至らなかった場合、例えば2対2対1のような場合は、2票を獲得した教科書会社2社で決選投票を行うこととなります。なお、2票を獲得した教科書会社が1社だけで、あとは1票ずつの獲得が3社のような場合、つまり、2対1対1対1といったような場合には、まず2票を獲得した1社を第1候補としておいて、残りの1票獲得の3社で再投票して第2候補を決め、その後に第1候補と第2候補で決選投票をするというように、いずれにいたしましても、1社が過半数の3票を獲得するまで投票を繰り返すという方法でございます。

私からの提案は以上でございますが、この提案につきまして、ご質問その他何かご意見

等がございましたらお願いいたします。――よろしいでしょうか。

それでは、提案いたしました採択方法について、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長 ご異議なしと認め、採択方法については無記名による投票方式に決定をいたしました。

それでは、審議に入りたいと思います。

リストに記載のある教科の順番に従いまして、最初に国語の教科から審議いたします。

投票に先立ちまして、各委員の皆様からご意見をお願いしたいと思います。

それでは、まず、私から意見を述べさせていただきます。

小学校の教科書採択については、前回、2019年度に行って以降、学習指導要領の改訂はございませんが、この間、町田市では、教員の働き方改革に伴う校務支援システムの導入による校務改善ですとか、GIGAスクール構想による児童・生徒1人1台端末の整備等、ICT機器の充実を図りまして、個別最適な学びと協働的な学びの充実による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努めてまいりました。

また、各学校にはこの主体的・対話的で深い学びの実現に向けまして、授業をデザインする上での参考としていただくように「8つの取組」をお示しし、推奨しております。

「8つの取組」というのは、この場で詳しい説明は省きますが、「見通しをもたせる導入」、「発問の工夫」、「価値ある対話の共有」、「振り返りの設定」、「構造的な板書とノート指導」、「ICT機器の活用」、「思考ツールの活用」、「認め合う・学び合う集団の形成」の8つでございます。

今回の教科書採択では、このような取り組みの推進にも寄与するという観点も含めて、拝見させていただきました。

なお、これまでの4年間、現在の教科書を使ってきたことを考えますと、できるだけ現在の教科書を継続して使うほうが、子どもたちや先生方にとっては、学びの連続性や、これまで作成してきた教材の有効活用などの点で、働き方改革の上でも効果的ではないかと考えるところですが、今回配布された各教科の候補本を拝見いたしますと、各社とも現行本を改善して、よりよい編集を工夫してきていますので、当然ですが、調査協議会の報告等で、これまでの4年間の使用において、大きな課題がある場合などには変更が必要だと考えております。

今回の教科書採択では、これらのことを踏まえた上で、町田市の子どもたちにとって最

も適した教科書、町田市の学校に勤務する先生方にとっても使いやすい教科書、そういう意味では、教科書を教えるのではなくて、教科書で教えるとよく言われておりますが、教科書が授業の台本のようにないもの、また、教科書に載っている発問等が、子どもたちの考え方を1つの答えに誘導するようなものではないことなど、全教科について、そのような観点で拝見させていただきました。

最初に、全ての教科についての今回の私の観点をお話しさせていただきました。

さて、国語の教科書についてでございます。

私は、国語という教科は、他の教科をはじめ、子どもたちの日常生活にも大きく影響を与える教科だと思いますので、子どもたちの学習意欲や関心を引き出す工夫、あるいは人とのかかわりの中で、伝え合う力の育成につながるような構成といったことを中心に見させていただきました。

そのような観点で見たときに、今回は3社から教科書が作成されていますが、その中で、私は、光村図書出版と東京書籍が、児童にとって、また先生にとっても使いやすいのではと感じております。

この2社とも、単元ごとに学習の進め方というか、どのように学び、どんな力をつけさせたいかということが、他社と比較してわかりやすく明確に示されていて、使われている教材は、今回、結構入れかえているようですが、子どもたちの発達段階に応じて、年齢、学年が上がるにつれて複雑になっています。

特に光村図書出版は、各単元の導入部分を大事にしていて、できるだけ易しく自然に入っていけるような配慮が感じられます。また、取り上げている教材、作品には、町田市の児童がつくった詩や、八木重吉の作品等もありまして、光村の教科書は厚くて重たいのですけれども、これは子どもたちの興味を引き、学習意欲を引き出すのにも有効だと思いました。

また、現在、町田市では、ICT機器を活用した教育の推進に取り組んでいて、全ての小・中学校にプロジェクターや大型提示装置、タブレット端末等の機器が整備されていますが、光村図書出版の教科書にはデジタルコンテンツが大変多く掲載されていて、そのほとんどがオリジナルの動画でございます。私が見ても、とてもよくできていて、ICT機器を使った授業でも活用度が高いものと感じました。また、スマートフォンでも簡単に見るができますので、家庭学習にも有効だと思いました。

私からは以上でございます。

それでは次に、各委員からご意見をお願いしたいと思います。

○後藤委員 初めに、私はこのたびの小学校教科用図書の採択審査を行うに当たって、次のように考えております。

今回は、現行学習指導要領で2度目の採択であり、各出版社が教科書内容を十分に精査して、前回以上に充実したものを編集していると思います。学ぶ子どもたちにとって、また、学ばせる教員にとって、継続した出版社のものがよいのか、新たな出版社のものがよいのかということや、町田市の子どもの学力向上にとって、基礎・基本的な確実な習得と、町田市で示す学び方を身につけられる教科書を選定することが重要と考えております。

特に町田市で示す8つの学び方がいかに効果的に表現され、構成されているかという点を重視しています。当然、紙面構成、教科特性による表現、使用文字や写真、人権上の配慮、町田市での教育課題のそれに対する扱い方なども調査し、教科用図書調査協議会の報告書、さらには学校の教員の意見、保護者、市民の皆様の意見も参考にいたしました。

では、国語科についてお話しします。

国語科の学習においては、学び方をしっかりと身につけることのできる教科書であること、そして国語という教科特性から見ると、継続することが望ましいと考えました。この点から光村図書出版がいいと判断しております。学び方として、見通し、ノート指導、対話、振り返り、思考ツールなどを明示し、子どもが主体的・協働的な取り組みをしていくことを促すように構成されています。また、一部教材を入れかえ、より学習しやすいという工夫も見られます。さらに、長年にわたり町田市の教員が取り組んできた詩集「町田の子」からの作品を掲載しており、町田市らしさを取り入れるなどの好感もありました。

以上です。

○森山委員 まず、私から、全体にかかわっての教科書採択の選定の観点についてお話をしたいと思います。

ご承知のとおりですが、学力の要素というものが、教科書選定にかかわっての観点として重要であると考えています。具体的に言えば、基礎的・基本的な知識・技能、また思考力・判断力・表現力、そして学習意欲、この3つの学力の要素が教科書の記載の中にどのような形で示されているかということ判断いたしました。

加えて、課題や問題解決的な学習、そして探究能力の充実に関しての教科書がどのように構成されているかということについても検討いたしました。当然のことですが、各教科

の独自の観点もあろうかと思えます。教科書の選定には、やはり学習指導を進める上で、学習の内容の組織とか配列とか分量が適切であることが必要であると思えます。

各教科の内容については、それぞれの教科ですので、省略いたしますが、学習指導要領の教科の目標を達成するため、効果的に教科書の編集がなされているかという点、そして町田市が掲げる点として8つの学びを示していますけれども、先ほど教育長からもお話がありました、この8つのものがそれぞれの教科書の中にどのような形で反映されているのかという観点を重視いたしました。

それでは、私から、国語の教科書について報告したいと思います。

3社から教科書が発行されているわけですが、1つは、東京書籍の「新しい国語」という教科書です。これについて、單元ごとにしっかりと示されている「言葉の力」というのがあります。ここに学び方とか考え方がしっかりと示されているところが特徴的な教科書であると思いました。加えて文章が非常にわかりやすく、写真が大きくて見やすい。これは実際に児童が使うときに重要な観点だと思いますが、このあたりのところが非常に充実していると思いました。

それからもう一冊は、現在、町田市が使用している教科書ですけれども、光村図書出版の「国語」です。これは読書活動、伝え合う活動、このあたりにポイントがしっかりと示されているところが大きな特徴であろうかと思いました。加えて、二次元コードを併用しながら学習ができるというところでの情報がしっかりと精選されていると思いました。先ほど伝え合う活動、あるいは読書活動の推進に特徴があるとお伝えしたのですけれども、それにかかわって、児童が主体で学習するということが明確に示されているのも教科書として重要なところではないかと思いました。

以上、私からは2つの教科書を挙げさせていただきました。

○井上委員 教科書採択に当たり、私も「授業をデザインする8つの取組」を考慮し、保護者委員として町田市に育つ子どもの実態に見合った教科用図書を採択したいと考えております。

また、今回ほとんどの出版社でデジタルコンテンツが豊富に準備されていますが、先生方に直接お話を伺いますと、日々の業務をこなすことに手いっぱい、デジタルコンテンツの内容確認や研究まで追いつかずに活用し切れないという現状もあるようですので、採択して終わりではなく、教育委員会として今後も先生方をバックアップし、積極的な情報共有を図っていかれたらと考えております。

では、国語について述べたいと思います。

私は光村図書出版がよいと考えております。みずから学ぼうとする姿勢を大切に、各単元に、課題意識、目的意識を持たせるような学習内容が明確に示されている点がよいと思いました。また、読書に親しむ単元を設けており、国語という教科にとどまらず、他教科や生活に生かす力を育もうという視点も特徴であると感じました。

私からは以上です。

○関根委員 私は、今回の小学校教科用図書の採択審査に当たりまして、町田市学力向上推進プランを参考にしながら、学習指導要領の趣旨、「主体的・対話的で深い学び」を踏まえながら、町田市の子どもたちの学力が向上し、生きる力を育むために必要な要素を含むものを選びたいと考えます。

子どもたちが初めて出会う教科書ですから、基本的にわかりやすく使いやすい、そして魅力的でわくわくしながら楽しく学べるものであってほしいと思います。指導する側の視点におきましても、この教科書を使うことで、子どもたちのどのような力を伸ばすことができるのか伝わるものであってほしいとも思い、採択に当たりたいと思います。

まず、国語におきまして、社会生活の基本であるコミュニケーションは、国語によって成立しますし、国語は日本文化の基盤であり、中核です。個人としても、生涯を通じて自己形成にかかわってくる大事な教科でもあります。そのことを念頭に置きながら調査・研究してまいりました。

また、国語におきましても、今後はデジタルコンテンツは必要不可欠であると考え、それが充実している光村図書出版と東京書籍2社に絞り、比較させていただきました。

光村図書出版ですが、まず、巻頭に、「学びを見わたそう」で、何をどのように学ぶかを意識させています。そして今回私がとてもよいと思った部分は、単元ごとの初めに、「問いをもとう」が示されており、児童の考えたい、学びたいという思いを引き出す手だてとなり、見通しから振り返りまでの学習の流れや、課題を明確にしながら進めることができる工夫があることです。

また、児童の発達段階においてたくさんの本が紹介されており、幅広い分野に関する知識や教養を豊かに育むことができるように配慮しています。児童が教材を理解し、イメージを豊かに広げられるような絵や写真があり、文字の大きさやフォント、ページのレイアウトや記号の大きさ、色彩も適当であると考えます。デジタルコンテンツも充実しており、日常の場面でも必要なノンバーバルコミュニケーションの取り上げ方も理解できるところ

です。

次に、東京書籍ですが、「言葉相談室」に着目しました。これは2年生以降の各学年に複数回設定され、主述のねじれや、修飾・非修飾の関係が曖昧な文章など、児童がつまずきやすいポイントを取り上げたもので、文法についての理解を深める上でも、とても大切なものだと思います。

以上のことを踏まえながら考慮させていただきましたが、光村図書出版のほうは、標準時数と指導時数の差が低・中学年ではゆとりがあり、書写、読書、評価などのバランスのとれた指導計画を立てられるという点と、町田市の児童や町田市ゆかりの八木重吉の作品が取り上げられていることにも鑑みまして、私は光村図書出版がよいのではないかと思います。

以上です。

○教育長 委員の皆様からそれぞれのご意見を頂戴しましたので、投票に入りたいと思います。

事務局から投票用紙が配られますので、これが最も適していると思われるものを1つ選んで、投票用紙に丸をつけて、投票していただきたいと思います。記入が終わった投票用紙は、事務局が回収して集計をいたします。

それでは、投票用紙を配付してください。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

光村図書出版が5票、以上です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、光村図書出版が過半数の3票以上を獲得しましたので、2024年度使用教科用図書、小学校「国語」は、光村図書出版に決定いたします。

次に、書写の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、まず私から意見を述べさせていただきます。

書写については今回3社あるわけですが、いずれもさまざまに工夫されていて、内容的に大きな差異はないという印象を持っております。そのような中でも、光村図書出版、それと東京書籍の印刷の色合いというのでしょうか、大変見やすく感じました。また、学習の進め方から用具の片づけ方まで、カラー写真等を使ってわかりやすく書かれていると感じています。

特に光村図書出版の教科書には、1年生の筆運びのところで、調査協議会からの報告にもあるとおり、オノマトペ、擬音語とか擬態語と言うのでしょうか、「すうっときて、『びたっ』。」とか、「とまって『びょん』。」「のんびり『ぐるうり』。」というような表現を使って大変わかりやすい指導だなどと思いました。先ほど国語のところでも申し上げましたように、よくできたデジタルコンテンツが大変多く掲載されていて、ICT機器を使った授業の中でも活用度が高いものと感じました。

また、光村図書出版の4年生の教科書では、はがきの表書きで使われている見本の宛先に、「町田市上小山田町」の住所が書かれていまして、とても親しみを持ちました。

以上でございます。

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

○後藤委員 書写では、書字の力を高めるためにいかに技能を身につけるように構成されているか、情報量はどの程度妥当に織り込まれているかという点を見ました。また、水書用紙やデジタルコンテンツの活用なども見ることにしました。これらの点から各社の教科書を比較してみますと、光村図書出版が、構成、情報量のバランス、水書用紙の書きやすさのいずれでも、町田市の子どもにより適していると考えます。

○森山委員 私の意見を述べたいと思います。

まず、書写については、3つの教科書が出ているわけですが、どれも非常に工夫がなされており、大きな差がないといえますか、そういう中での意見になります。

特にその中でも、教育出版の「小学 書写」の教科書については、毛筆から、現代のいわゆる年賀状とか手紙というようなことが一連で非常に丁寧に教科書の中で取り扱われています。そういう意味では、全体的に充実した書写の教科書であると考えました。

それからもう1社は、光村図書出版の「書写」という教科書です。これは手書きの文字のよさというところでいろいろな形で工夫をして、手書きに相当こだわるような形で教科書の内容が充実したものとなっていると思いました。加えて、子どもの立場からいくと、ポイントが非常にわかりやすく示されており、そういう点で、光村図書出版の「書写」の教科書が採択に値するのではないかと思います。

以上です。

○井上委員 3社とも日常生活で活用できる情報を多く取り入れている印象です。教材文字が常に左側にあるほうが見やすいと感じましたので、わかりやすく課題意識を持たせるような事例を示している東京書籍か、学習の進め方が明確に示されている光村図書出版が

いいのではないかと考えました。

私からは以上です。

○**関根委員** 今の時代、さまざまな情報機器の発達によって、手書きする機会がとてもなくなくなってきました。こういった時代だからこそ、書写という手作業は、日常生活においてむしろ必要不可欠だと感じます。文字を大事にすることが日本の伝統や文化を尊重することにもつながる大変重要な科目であり、子どもたちが生涯にわたって文字文化の豊かさを楽しみながら味わっていくには、書写学習が担う役割はとて大きいのではないのでしょうか。

そこで、私は、学びやすく教えやすい、そして学びが日常に広げられやすく、デジタルコンテンツではより学びが深まるものということのポイントに調査・研究させていただきました。

まず、東京書籍は、文字を正しく整えて書くためのポイントを示した「書写のかぎ」を中心に、課題解決型の学習過程で構成されています。また、左ききの児童にも考慮し、横書きについても丁寧に扱われており、デジタルコンテンツはポイントを絞ったシンプルでわかりやすいものでした。

次に、教育出版は、全体的に見て、書く力を学ぶコツや楽しさをよく研究されていると思います。特に毛筆学習において、平仮名の「むすび」や片仮名の「まがり」、「おれ」など、1つの題材で筆遣いの違いを確かめられる軸が採用されています。全ての題材において筆の穂先の通り道を朱墨で示していて、向きや動き、筆圧や筆遣いがとてもわかりやすいのが特徴的でした。また、手書き文字のよさを体験できるように、年賀状の手紙の書き方、はがき、横書き、原稿用紙、罫線のある用紙、メモのとり方など、日常に即したものを、各学年の学習活動に合わせて、意識的に丁寧に豊富に取り入れているところがすばらしいと思います。

光村図書出版ですが、1年生で、「もじたんけんたい」、「しょしゃたいそう」、「しせい」、「えんぴつのもちかた」などの「しょしゃすたあとぶっく」を、3年生では、「毛筆のひみつ」、「準備」、「姿勢」、「片付け」、「学習の進め方」、「穂先の向き」の「毛筆スタートブック」があり、硬筆、毛筆の入門時期の児童が興味を持って取り組めるように工夫されています。1年生の書写の入り口である平仮名の教材では、「とめ」、「はね」などの筆遣いを子どもたちにわかりやすいオノマトペを用いた表現で表記しているところもよいと思いました。

また、デジタルコンテンツが充実しており、筆遣いの解説動画やアニメーション、写真、右きき、左ききそれぞれに鉛筆の持ち方、字を書く姿勢、用具の準備などを確認できるように配慮されていることも大きなポイントだと思います。

各社ともそれぞれに工夫が見られる教科書ですが、私といたしましては、特に光村図書出版か教育出版がよいと思いました。

以上でございます。

○**教育長** 委員の皆様からそれぞれのご意見をいただきましたので、投票に入ります。

事務局から投票用紙が配られますので、これが最も適していると思われるものを1つ選んで、投票用紙に丸をつけて、投票していただきたいと思います。記入が終わった投票用紙は、事務局が回収して集計をいたします。

それでは、投票用紙の配付をお願いします。

(投票)

○**教育総務課長** 集計が終わりましたので、発表いたします。

光村図書出版が5票、以上です。

○**教育長** ただいまの発表のとおり、投票の結果、光村図書出版が過半数の3票以上を獲得いたしましたので、2024年度使用教科用図書、小学校「書写」は、光村図書出版に決定をいたします。

次に、社会の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、まず私から意見を述べさせていただきます。

社会については、各社それぞれに特徴や工夫があるわけですが、私は、子どもたちがそれぞれ、自分が社会の中でどのように位置しているか、かかわっているか社会に関心を持つ、あるいは社会について考えるきっかけになってほしい、そのような観点から見させていただきました。

そういう観点の中で、導入段階での工夫とか、学習方法のポイントなどをわかりやすく解説して提示しているのが東京書籍だと感じております。調査協議会の報告にもございましたが、学習過程の段階が、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」というふうに明示されていて、単元の構成がわかりやすく、「ひろげる」のところで発展的な内容も示されています。特に「まとめる」のところでは、思考力、判断力、表現力を重視していて、子どもたちに主体的に自分の意見をさまざまな形でまとめさせるというような工夫があると思いました。

それから、社会科で取り上げている地域というのは、各社ともに全国さまざまな地域を取り上げていますが、東京書籍の6年生の「歴史」の中では、各地に残る鎌倉時代のエピソードとして、町田市が取り上げられていまして、「鎌倉街道の一つの『上道（かみつみち）』で、鎌倉と秩父や高崎などを結んでいて、七国山に上っていく道」と記され、「かまくら井戸」や石碑の解説とともに、現在の鎌倉街道を走る連節バスの写真などが掲載されております。このことは子どもたちにとって身近で親しみやすいのではないかと考えております。

以上でございます。

それでは、委員の皆様から意見をお願いいたします。

○後藤委員 社会科は、問題解決学習の学び方で学ぶ教科だと思えます。どのような視点でその学習過程を構成して、子どもにとって学びやすくなっているかということが大変重要と考えます。また、3・4年生は副読本を中心に学習を進めることが多いわけですから、どこの教科書の構成がその副読本と連携しているかということを見ました。

この点で見ますと、東京書籍や教育出版は、問題解決学習の学び方の学習過程が非常に工夫して構成されています。また、3・4年生の副読本は内容を変えずに継続される予定ですので、その関係で見ますと、東京書籍の構成がよりよいと判断いたしました。

以上です。

○森山委員 私の意見を述べさせていただきます。社会科については、東京書籍の「新しい社会」と教育出版の「小学社会」の2つを挙げたいと思います。

社会科については、特に「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力」の基礎を育成するということが目標として掲げられています。それを具体的に非常にわかりやすく、学ぶプロセスを大切にしながら示した教科書が先ほどの2冊ではないかと思いました。

特に東京書籍の「新しい社会」では、全ての単元で、学習の過程として、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」という学習のプロセスが明確に示されていて、非常に学びやすい教科書ではないかと思いました。

それから、教育出版の「小学社会」につきましても、「つかむ」、「しらべる」、「まとめる」、「つなぐ」ということで、まさに問題解決的な学習の手法を非常にわかりやすく教科書の中で学ぶことができると感じたところです。

以上です。

○井上委員 私は東京書籍がいいと思います。身近な社会的事象に対して疑問を持ち、資料を見て自分で調べる。そして、わかったことをまとめるという一連の流れが、とてもスムーズに行える教科用図書なのではないかと感じました。また、子どもたちの興味・関心を引きつけるような色鮮やかな写真、イラストの資料がとても見やすく、グループワークなどでも扱いやすい点もよいと思いました。

私からは以上です。

○関根委員 社会科は、子どもたちが社会の一員として自覚を持ちながら、自分たちが生活している今の世の中がどのようにつくられて、どのように展開しているかを学ぶ科目です。これからの時代を生きていく上で必要な社会認識と判断力を養う力が身につき、たくさん知識が得られるような教科書を選びたいと思います。これからの日本の課題でもある少子化、高齢化、人口減少、地球温暖化などの環境問題、災害、エネルギー問題などについて、子どもたちが自分事として捉え、立ち向かっていける力を身につけてほしいと切に願っているところです。

そのような観点から見ますと、東京書籍では、各単元においても、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」が明示され、学習段階をたどりながら、問題解決的な学習の流れを意識できるように配慮されていると思います。

また、学習のまとまりの最後に「ひろげる」コーナーがあり、発展的な内容など、児童が学習したことから、さらに視野を広げて考えられる工夫がなされています。「まなびのポイント」においては、その時間の学習内容や問いかけが毎時間示されており、指導する側にとっても、児童にとっても、見通しを持って学習を進められるようになっています。

また、写真やイラスト、資料などについても色鮮やかで明るい印象がありますし、レイアウトもすっきりしています。

5・6年生の教科書が分冊になっておりますが、6年生は政治・国際編と歴史編になっているので、どちらを先に学習するのかを柔軟に対応できるというメリットもあります。

さらに、6年生の「歴史」において、町田市の鎌倉街道が取り上げられていることもあり、私といたしましては東京書籍がよいと思いました。

以上です。

○教育長 委員の皆様からそれぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙の配付をお願いいたします。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍が5票、以上です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、東京書籍が過半数の3票以上を獲得いたしましたので、2024年度使用教科用図書、小学校「社会」は、東京書籍に決定をいたします。

次に、地図の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、まず私から意見を述べさせていただきます。

地図については、2社の教科書が提出されておりますが、この2社の地図の色合い、色調に差があることがわかります。これは好みによるものと思えますけれども、私は帝国書院のほうの方が明るく鮮明な印象を受けました。また、地名や山の高低差といったことについても、帝国書院のほうの方がはっきりしてわかりやすいと感じました。

また、東京都の地図についてですが、東京書籍のほうは、地図が小さくて、区部に集中しているような気がいたしまして、町田市は「町田」という文字しか見えないのですけれども、帝国書院のほうは、折り込みページで大きく、町田G I O Nスタジアムや薬師池公園、町田リス園などの名所が入っており、町田市の位置や形、名所などがわかりまして、大変親しみやすいと思いました。

以上でございます。

それでは、委員の皆様から意見をお伺いいたします。

○後藤委員 地図は、やはり色合いや構成が見やすく、子どもたちにとって活用しやすいことが重要だと思います。3年生から使われることを考えますと、地図帳の見方や使い方を入門時に丁寧に扱っているということも必要です。町田市や東京都についても詳しく扱っていることなどから考えると、帝国書院が適していると判断いたしました。

以上です。

○森山委員 地図に関しましては、先ほどからの委員の意見の中にもあったように2冊出しておりますが、どちらも基本的には各学年の目標と内容を踏まえて充実した地図帳になっていると判断いたしました。その上で、帝国書院の「楽しく学ぶ小学生の地図帳」という教科書が適しているのではないかと思います。

以上です。

○井上委員 私は帝国書院がいいと思います。「地図マスターへの道」は、レベルが分かれていたり、学年と教科書の内容との関連について記載されており、子どもの発達段階への配慮を感じました。また、6年生までの間に地図マスターを目指してほしいという4年間使用することに重きを置いている点が非常によいと思いました。

二次元コードの47都道府県の地図は、ただの地図にとどまらず、地形の様子、交通の様子、主な農林水産物や工業など、さまざまな角度から特徴を見られるつくりが教員目線でとても使いやすいのではないかと感じました。また、文字の大きさと適度な余白といったバランスのよさ、地図の見やすさが町田の子どもたちに合っているのではないかと考えます。

私からは以上です。

○関根委員 私は、地図帳を選ぶに当たりまして、初めて地図帳を手にする児童にとってはどうか、見やすくわかりやすいものか、地図からどんなことを学べるのかの3つをポイントに調査・研究しました。

各社ともそれぞれ工夫が見られましたが、特に帝国書院におきましては、まず、初めて地図と出会う3年生を意識した「地図帳のつかい方」、「地図のやくそく」の部分が10ページも取られ、わかりやすく解説してあり、地図学習の導入に力を入れているところが大変よいと思いました。この導入部分でつまずくと、地図を見るのが嫌になり、最近よく聞く、地図が読めない大人になってしまうような気がします。

また、その導入部分には、児童の発達段階に応じた親しみやすいイラストや会話形式を取り入れており、児童が興味を持ちやすくなっています。さらに、配色やフォント、語句や地図記号の解説も見やすく、立体感があり、地形をイメージしやすいところがすぐれていると思いました。

「地図マスターへの道」では、ゲーム感覚で地図に親しめるようになっており、地図を使う技能に加えて、自分自身で各地の特色をつかみながら学習を進めていくような工夫もあります。

また、東京都の地図も大きく取り扱い、町田市的位置や形、薬師池公園や町田リス園などの具体的な名所も明記されているので、町田市の子どもたちにとっても身近に感じられ、副読本の「わたしたちの町田」とも合わせて、楽しく学習ができると思います。

その他の特色としては、人々の暮らしや産業、国土の特色、歴史や伝統、SDGs、防災などの理解を深める資料もあり、この地図帳1冊で、豊かな知識を楽しみながら学べる

のではないかと思いました。そんなところから、私は帝国書院の地図帳がよいと思いました。

以上です。

○**教育長** 委員の皆様からそれぞれのご意見を頂戴いたしました。これから投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙の配付をお願いいたします。

(投票)

○**教育総務課長** 集計が終わりましたので、発表いたします。

帝国書院が5票、以上です。

○**教育長** ただいまの発表のとおり、投票の結果、帝国書院が過半数の3票以上を獲得いたしましたので、2024年度使用教科用図書、小学校「地図」は、帝国書院に決定をいたします。

次に、算数の教科について審議いたします。

投票に先立ちまして、まず私から意見を述べさせていただきます。

私は、算数というと、いつも言うのですが、一度わからなくなってしまうと、次に進む意欲がなくなってしまって、それを取り戻すにもなかなか難しい教科だと思っています。また、毎日授業がある教科ですので、子どもたちが身につけた学力の積み重ねの有無が大きく左右する教科であるとも感じています。ですので、子どもたちの学習への興味を引き出す工夫とか、それを継続させる工夫があるかという観点で見させていただきました。

そういう観点の中では、導入段階や振り返りの段階などで、図や写真等を使ってさまざまな工夫が感じられ、また、紙面も見やすかった東京書籍、あるいは学校図書といったところがすぐれているのではと思っています。

中でも東京書籍は、基礎的・基本的な学力の定着を意識した構成となっていて、巻末には発展的な課題も提示されており、各単元の終わりには振り返りのページがあって、以前に学習した用語や定義などを振り返ることができて、子どもたちが自主的に問題解決に向かえるような工夫が見られました。

調査協議会の報告の中に、町田の子どもたちには基礎・基本をしっかり教えることが大事だというお話もございました。そういう意味では、一度つまずいた子どもたちにも有効な教科書ではないかと思っています。

また、1年生の別冊としてついている冊子は、装丁にしても、中身にしても、1年生にはとても役立つのではないかと感じました。

以上でございます。

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

○後藤委員 算数科は、町田市の学力調査結果に大きく影響している教科です。教科書では基礎・基本の確実な習得と、町田市で示す学び方を身につけられるものであることが必要です。教科の特性上、継続の有無はあまり影響がないというふうにも考えます。どの出版社も問題解決学習の展開であり、見通し、ノートへの記述、対話、振り返りなどを明示した構成になっており、大差がないというふうにも見えました。

その中で、町田市ではChromebookで、デジタル問題集を使って、基礎・基本的な内容の習熟を図ろうともしていますので、教科書では、子どもたちがより主体的・対話的な学びを多くさせるように構成していることが必要だと考えています。この点で見ますと、学校図書と教育出版がよりよいと判断しました。

以上です。

○森山委員 算数科について、私の意見を述べたいと思います。

算数科の目標は、数学的に考える資質・能力の育成というところにあると思います。そうしますと、数量や図形及びそれらの関係に着目して筋道を立てて考えること、そして統合的・発展的に考えることが非常に重要になってくるかと思えます。また、数学的な活動では、問題を自立的・協働的に解決するプロセスが非常に重要であると思います。その観点から教科書を検討させていただきますと、東京書籍の「新しい算数」と教育出版の「小学算数」が非常にしっかりと充実した教科書であると判断いたしました。

以上です。

○井上委員 私は2社挙げたいと思います。

1つ目は、東京書籍です。単元の最初に、吹き出しによる考え方のヒントが多く、学力の定着に重きを置いており、基礎を固めるにはとてもよいと感じています。

もう一つは、学校図書です。はてなを発見し、見通しを持たせる導入により、めあてが生まれるという流れになっており、対話を通して考え方を育てていく姿勢を大事にしているところが特徴的だと感じました。

私からは以上です。

○関根委員 算数の楽しさというのは、単に楽しく学習するだけではなく、日常生活や社

会で起こることに結びつけて問題を発見して解決していくことの中にもあると思います。それを振り返ることで、その結果の意味を考えたり、話し合いの中で、自分の概念を形成したりできるような教科書がよいと思っています。社会をよりよく生きていくために、正確な情報を知り、問題を解決する能力を身につけるためにはとても大事な教科書だと思うので、それを頭に置きながら調査・研究に当たりました。

町田市学力向上推進プランにもありますように、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を実践していくために、先生方が使いやすく、子どもたちにもわかりやすい教科書をとこの観点から見ていると、6社ともとてもよくできていると感じます。それぞれが問題解決型学習を重視しており、子どもの問いを発見し、生かし、深めるプロセスがしっかりと押さえられていました。

さらに、デジタルコンテンツにおいても、各社とも、練習問題や応用問題、図形や時計、数直線などを使った解説、アニメーションなど、数学的な力が身につく工夫がなされていました。各社のよさがあり、甲乙つけがたく大変悩みました。

そこで、私が決め手としたポイントがあります。

1年生入学時期の生活指導補助の仕事の経験から、算数導入の時期を振り返ってみたときに、最初の最初でわからなくなると、その後もずっと引きずってしまい、次のステップへ進めない。つまり、算数に楽しさを見出せなくなってしまう、そんな児童をたくさん見てきました。ここでいかに丁寧に時間をかけてあげることがとても大事だと常々思っていましたので、1年生の算数導入の部分が手厚い会社に絞りました。

さらに申し上げますと、中学1年生の1学期の生徒の様子を見ていますと、スタート時から数学につまずく生徒が想像以上にたくさんいるということです。そこで、現場の先生にもお聞きしたところ、小学校6年生の学習で学んだ教科書に即した中学の数学へつなぐような学習ができる別冊のようなものがあるととても効果的であるとのことでした。

そのようなご意見も踏まえ、私は学校図書がよいかと思っています。加えてこの教科書は、学習の初めだけではなく、いろいろな場面で、めあてが例示されていて、学習の流れの中で、自然と児童が学ぶ目的が持てるようになっていくこともポイントの1つでした。

「みんなと学ぶ 小学校 算数」というタイトルどおり、キャラクターなどを登場させて、数学的な見方・考え方についてみんなで楽しみながら学ぶという、子ども同士が話し合いながら楽しく学んでいく姿が想像できる教科書だと思いました。

私からは以上です。

○教育長 委員の皆様からそれぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙の配付をお願いいたします。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍が2票、学校図書が3票、以上です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、学校図書が過半数の3票以上を獲得いたしましたので、2024年度使用教科用図書、小学校「算数」は、学校図書に決定をいたします。

次に、理科の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、まず私から意見を述べさせていただきます。

理科の教科については、各社とも導入部分に漫画を使ったり、キャラクターに話させたり、写真や挿絵などを豊富に使うなどして、子どもたちの興味や関心を引き出す工夫がありました。また、実験等に際しての安全性の確保、注意すべきところなどの扱い方の工夫というのは、用具などに若干の違いはありますが、各社とも要点を押さえられていると思いました。

そういう意味では、各社拮抗している状況でございますが、調査協議会の報告にもあるとおり、子どもたちがみずから課題を発見して、その課題の解決に主体的に取り組ませるという観点では、私は教育出版、あるいは大日本図書が、予想や考察の扱いを強調し過ぎずに、変に解説に誘導されないというか、むしろシンプルで子どもたちの主体的な取り組みに配慮した書き方になっていると感じました。

特に教育出版は、私が一番気にしている実験等の際の注意とか、危険性の指摘について、例えば6年生の水溶液の性質の単元で、ほかの会社はコラムのように小さく載っているところも、見開き2ページを使ってしっかり説明されていて、加えて、各学年の教科書の裏表紙には、「理科の安全の手引き」が掲載されておりまして、大変安心するところでございます。

また、教育出版には、町田市の大賀ハスの蓮田の写真や、アサガオやヘチマなどを観察する町田市の子どもたちの写真が掲載されておりまして、子どもたちにも親しみやすいのではないかと感じております。

以上でございます。

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

○後藤委員 理科は、問題解決学習の教科特性を持ち、問題の見出しから結論に至るまでを、子どもの主体的な学びで構成されている教科であります。また、学んだことを日常に当てはめて考えたり、発展的な内容につなげたり、安全上の配慮についてきちんと表現されているなどは、各教科書が各出版社ともに大差なく構成されていました。

教材や観察、実験については、各出版社がそれぞれに工夫していますが、この点では継続していることで、教員にとってこれまでの4年間で扱ってきた教材、観察、実験の方法などが指導しやすいのではないかとというふうにも考えられます。さらに、よりわかりやすく子どもの「主体的・対話的で深い学び」を考えると、教育出版と東京書籍がよいと判断しました。

以上です。

○森山委員 私から理科について意見を述べたいと思います。

まず、今回の理科の教科書の背景とといいますか、特に重要な観点として、理科の見方・考え方というものが重要になってくるかと思います。理科の見方・考え方というのは、それぞれ教科等の特性に応じた物事を捉える視点や考え方ということになるかと思いますが、理科の学習においては、理科の見方・考え方を働かせながら、知識とか技能を習得したり、思考力、判断力、また表現力等と同時に、学習を通して、理科の見方・考え方が豊かになるという考え方に基づくものだと思います。

このような理科の非常に特徴的な学習のポイントからしますと、私は、東京書籍の「新編 新しい理科」の教科書、大日本図書の「新版 たのしい理科」の教科書が適していると思います。これは具体的には問題解決の流れに非常に着目して、そのような形で教科書が編集されているところに注目すべきだろうと思います。

以上です。

○井上委員 私は大日本図書と教育出版を挙げたいと思います。

大日本図書の身近な活動の写真から問題を見出し、解決の流れを示している部分がよいと感じました。そして、単元終わりにはその学びを振り返り、生活に結びつけようとしている点で、生活科から理科への移行が抵抗なくスムーズに感じられるのではないかと考えました。

次に、教育出版は、子どもがわかりやすい焦点に絞ったシンプルな導入で、単元終わりの「確かめよう」では、穴埋めや選択肢などで、学習の確かな定着につながる振り返りが

できるようになっています。伝え合い、話し合いの活動につながっていくのも特徴的だと思いました。そして科学へ興味をより引きつけるような資料などを掲載している点がとてもよいと感じました。

私からは以上です。

○関根委員 なぜ理科を学ぶのか。それは私たちの身の回りの自然界のつながりを見て、その法則を理解し、理科の知識が自分の生活に役立っていることを実感して、よりよい生活を送るためです。それには、子どもたちが自然に親しみながら観察や実験などを行い、自然界で起こる事象について理解し、さらには科学的な見方や考え方につなげることを、今の小学校の学校現場では教えていかななくてはなりません。

そこで、子どもたちの好奇心や探求心や興味をいかに引き出して問題解決していくかという視点で各社の教科書を見てまいりました。

子ども自ら生活の中で課題を見出して、それを解決していく形がとてもわかりやすく展開されているのは教育出版だと思います。単元の初めには、「見つけよう」の項目で、視覚的にもすっきりしたレイアウトで、教える側も扱いやすく、児童にとっても授業の流れを容易にイメージでき、問題解決へのプロセスがよく理解できるのではないかと思います。また、始まりのページに、下の学年と上の学年のどの学習とつながる内容であるかが記載されていることや、ノートのとめ方、器具の使い方、「理科の安全の手引き」なども丁寧に解説されていました。

さらに、「科学のまど」、「資料」として、自分の生活や自然とのつながりに関連するSDGsについて掲載していることや、科学者からの熱いメッセージもあります。

デジタルコンテンツには、植物・昆虫図鑑、デジタル星座早見表など、魅力的なコンテンツがあり、子どもたちが理科を好きになる理由の1つになるのではないかと思います。拝見しました。

東京書籍の「理科の世界 探検部」にある学習に関係ある職業の話も、キャリア教育を意識させる意味でとてもよいと思います。

大日本図書についても、資料の掲載量がとても多く、特にSDGsに関する記事や、ものづくりに関する掲載が豊富で、さらにプログラミングの考え方を生活に生かす内容の記事がとてもよく研究されていると思います。

各社ともユニバーサルデザインの観点においては、児童の興味・関心を引くような写真やイラスト、図版、記号などの扱い方、その大きさやレイアウトなどにも工夫が見られま

したし、理科室の使い方や器具の使い方、実験の安全性についても丁寧な記述がありました。これらを総合的に見て、私は、教育出版の教科書がよいと判断いたしました。

以上です。

○**教育長** 委員の皆様からそれぞれご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙の配付をお願いいたします。

(投票)

○**教育総務課長** 集計が終わりましたので、発表いたします。

教育出版が5票、以上です。

○**教育長** ただいまの発表のとおり、投票の結果、教育出版が過半数の3票以上を獲得いたしましたので、2024年度使用教科用図書、小学校「理科」は、教育出版に決定をいたします。

次に、生活の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、まず私から意見を述べさせていただきます。

生活科というのは、社会や自然とのかかわりやいろいろな生活体験が不足している子どもたちに、この教科によってさまざまな気づきを促して、社会を生き抜く力を培うという側面があると思っています。そういう意味では、生活科というのは教科書の内容を教えるのではなくて、これからいろいろな体験活動をしようという子どもたちに興味・意欲を持たせて、さまざまな体験から気づきを促すという工夫が求められると思っています。

そういう観点から見ますと、私は、光村図書出版、あるいは東京書籍のように、なるべくシンプルで、子どもたちにわかりやすい構成の教科書がよいと思いました。特に光村図書出版は、元気はつらつとした子どもたちの姿、笑顔の写真が多く、子どもたちを引きつけて、わかりやすい学習の流れも意図していて、子どもたちにやってみたいと思わせるようなつくりになっていると感じました。

以上でございます。

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

○**後藤委員** 生活科では、子どもが学びの対象に関心を抱き、見通しを持って計画を立てて活動し、その活動を振り返ってみずからの成長を実感して、次への意欲が持てるように学ぶことが必要となります。また、低学年は、新規採用者などを初め、経験の浅い若手の教員が担当することも多く、教科書に示された投げかけの言葉、活動の様子の写真や絵、

流れ、心情の表出などで構成されていることによって、それが指導に生きてまいります。そして、子どものよりよい学びにつながっていくと考えます。

さらに、学習対象が、自分自身、身近な人々、社会、自然、学校、家庭、地域、それらを対象にするわけですけれども、特に自分自身や身近な人々などでは、全出版社とも、肌の色の違う子どもたち、あるいは車椅子に乗っている子どもなどを登場させてはいますが、その扱いには違いがあるように見えました。年間を通して多くの場面で登場させていたり、絵だけでなく、写真で登場してリアリティー感を感じさせたり、子どもだけに限らず、その保護者も登場させたりなど、人権教育上、あるいはインクルーシブ教育といった視点で編集をしている教科書があります。これらの点から、教育出版と光村図書出版がよいと判断しました。

以上です。

○森山委員 私から生活科について意見を述べさせていただきます。

まず、生活科は、他の教科と異なって、親学問がない教科であると思っています。そのことから、特徴が、言葉と体験を重視する点、そして、幼児期の教育とのつながりに留意する点、そして、小学校の低学年という位置づけがありますので、小学校低学年の各教科等における学習との関係を明確にする。それから、中学年以降の学習とのつながりもある程度踏まえるということで、非常に多くの特徴を持っている教科だと思っています。

そういう観点からしますと、東京書籍の「新しい生活」については、スタートカリキュラム等の学習活動を中心に編成されている点もありまして、幼児期に育まれた資質・能力を發揮できるような工夫が見られるかと思っています。

それから、大日本図書の「たのしい せいかつ」についても、導入時に子どもの活動を引き出していく。これは二次元コードから動画も見られるわけですけれども、そのように具体的に子どもたちの意欲を引き出すような工夫が見られます。

それから、教育出版の「せいかつ」という教科書についても、子どもたちのモチベーションを高めたり、あるいは動機づけの内容が明確に示されており、これも主体的な学びにしっかりとつながっていくような教科書であると判断いたしました。

以上です。

○井上委員 私は光村図書出版がいいと思います。ヨシタケシンスケさんの絵が非常にかわいく、子どもの実態を的確に捉えた挿絵や一言になっており、例えば「やってみよう、にこにこ大きくせん」という単元でも、「でもまあ、にこにこできないときも そりゃ、

あるよね。」と、子どもの気持ちに寄り添った言葉がイラストに添えられていることが、大人も子どもも思わずうなずいてしまう内容になっており、いろいろな感じ方、気持ちを受けとめてくれるところがいいと感じました。また、巻末の「きせつのなかまたち」は、切り取って外へ持ち出せる点がすぐれていると思いました。

私からは以上です。

○関根委員 生活科は、小学校に入学した児童の生活圏そのものにかかわります。豊かな活動やさまざまな体験をしながら、自分の身の周りで起こるたくさんのもにこれからどうやって向き合っていくのかという基礎を学ぶ大切な教科です。1・2年生のこの時期ならではの小さな気づきや思い、願いが、中学年、高学年、中学校以降への学びにつながって、自分で未来社会を切り開く力の素地となるような、その手助けができる教科書をと考えました。

各社それぞれよさはありますが、私が特によいと感じた教科書は、光村図書出版、東京書籍、啓林館です。私が一番気になっていたところは、小学校に入学したばかりの児童が、生活にうまく順応できるように、スタートカリキュラムの部分を児童にわかりやすく、より丁寧に扱っているか。また、生活科の学びのプロセスに沿った学習展開ができるようになっていくかという部分でした。3社とも、児童が豊かな活動をしながら、子どもたちの資質や能力が育成できるように工夫されておりました。

東京書籍の「まちたんけん」では、児童がまち探検で調べてきたことを友達と話し合い、気づきを深め、もう一度まち探検を実施する展開になっており、児童の思いや願いに即した探求的な活動になっています。再度活動することで、自分の住んでいる地域のよさに気づき、それを発信するという展開もあります。今の時代、地域と深くつながる活動を大切にしているところがとてもよいと思いました。

啓林館の巻頭にある「すたあとぶっく」には、小学校生活の導入の部分に加えて、「けんこう」、「あんぜん」のページもあり、生活上に必要な習慣や技能が身につけられるようになっています。また、下巻巻末の「3年生へのステップブック」では、生活科の学習を振り返り、3年生以降の学習へのつながりを詳しく紹介しているので、児童にとっては進級後の不安が少しでも緩和されるかと思います。これらの細かい配慮がとてもよいと思いました。

光村図書出版は、学習のポイントがとてもわかりやすい紙面構成になっていて、学習のまとめりごとに、「ふりかえろう」では、学習してみてどう思ったかなど、児童の気づき

が深まるような工夫があります。

デジタルコンテンツでは、健康、安全、道具、注意する植物や動物についての資料などが豊富で、身につけさせたい習慣や技能が充実していました。

さらに、別冊の「ひろがるせいかつじてん」では、短い言葉や楽しいイラストで活動の様子が示されており、単元に合わせて、児童がいつも手元に置き、興味を持ちながら使えます。また、屋外の活動でも使いやすいように、資料が厚紙仕様でフィルム加工されていたり、切り取って使うものにはミシン目も入っており、実際に使う場面を想定し、考慮した工夫も評価できます。

全体的には、絵本作家のヨシタケシンスケ氏が描くイラストの感性と世界観がよいテキストとなり、この教科書の統一感をつくり上げています。

以上のことから、トータル的に見まして、私は光村図書出版の教科書がよいのではないかと思います。

私からは以上です。

○教育長 委員の皆様からそれぞれのご意見をいただきましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙の配付をお願いいたします。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

教育出版が2票、光村図書出版が3票、以上です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、光村図書出版が過半数の3票以上を獲得いたしましたので、2024年度使用教科用図書、小学校「生活」は、光村図書出版に決定をいたします。

次に、音楽の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、まず私から意見を述べさせていただきます。

音楽では、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する」ということが目標で、表現教材や鑑賞教材の充実といったことが観点になると考えました。

その中で今回2社から教科書が出されておりますけれども、教育出版のほうは、写真やイラストが多く、また歌唱教材が数多く掲載されておりますが、調査協議会の報告では、選曲や構成など全体的に上級者向きで、記号や専門用語などの知識を学ばせることにも力

を入れています。

一方の教育芸術社のほうは、全体に標準的で必要な要点に絞った解説があつて、表現・鑑賞教材は適切な分量だと考えます。また、6年生の教科書の中で、オーケストラで「木星（ジュピター）」を聞くというところがあつて、今の子どもたちに受ける楽曲が多いと感じました。

二者択一ということで迷うのですが、教育芸術社のほうは、実践的で説明し過ぎない記載であるために、先生が授業展開しやすい。言いかえれば、先生の力量を問われることになるかもしれませんが、子どもたちの気づきを促したり、みずから考えさせたりすることに有効ではないかと思っております。

また、教育芸術社には、効果的なデジタルコンテンツが多く掲載されておりまして、ICT機器を使った授業においても活用度が高いのではないかと感じております。

以上でございます。

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

○後藤委員 音楽科の授業で子どもたちが楽しく歌い、演奏していくには、子どもたちの実態に合った教科書がよりよいと考えます。また、低学年では担任教員が、中・高学年は専科教員が指導することが多いという実態のため、いずれの教員にとっても、標準的で指導しやすいという教科書が適しているのではないかと考えます。

さらに、音楽づくりの領域で、ICT活用の工夫があり、実際にデータを使って子どもたち自身が操作できるなど、現在使っている教育芸術社が今回もバランスよくつくられていると判断しました。

以上です。

○森山委員 これも2冊教科書が出ているわけですが、特に教育出版の「小学音楽 音楽のおくりもの」の教科書については、基礎・基本に非常に忠実に教科書が編集されていると感じました。そういう意味では、学年それぞれに、基礎からある程度レベルが上がっていくようなものがはっきりと示されているという特徴を持っていると感じました。

それから、教育芸術社の「小学生の音楽」についても、基礎的・基本的な内容を着実に身につけるといふことでの学習展開がよりよくなされるような特徴があると感じました。そういう意味では、どちらも基礎・基本に中心を置いて、それから発展的に学習していくという非常にしっかりとしたプロセスが示されているところに特徴があると感じました。

その中で、私としては教育芸術社の「小学生の音楽」の教科書がよいのではないかと判

断をいたしました。

以上です。

○井上委員 私は教育芸術社がいいと考えております。デジタルコンテンツの中に、自分で実際に操作して、リズム遊びや旋律づくりをすることができるものがあり、私も試してみましたが、でたらめに入力しても、それなりに味のある曲になるのがとても興味深く、後を引くおもしろさでした。また、全体的に子どもの気づきを引き出すつくりになっているところ、特に高学年では、曲への理解を通して、友達との考え方の違いに触れるつくりになっているところが非常によいと感じました。

私からは以上です。

○関根委員 音楽教育は、何よりも子どもたちに、自分の中にある音を楽しむことを目覚めさせ、音楽の持つ力、すばらしさを認識させながら、自分自身を高めていくことだと思います。町田市では小学校連合音楽会もあり、毎年感動しながら聞かせていただいております。そんな町田の子どもたちが、普段から使う教科書は、歌唱、楽器、音楽づくりなどのたくさんの表現や鑑賞活動を通して、もっともっと音楽を愛する心と感性を育てられるものがよいなと思いながら各社比較させていただきました。

まず、児童の興味・関心を引き出すことにつきましては、両社ともよく工夫されていたと思います。表現教材や鑑賞教材についても充実しておりました。

調査協議会によりますと、総合的に見て、教育出版のほうは上級の、教育芸術社のほうは標準的とありました。それぞれの特徴もありますが、教育芸術社のほうは、児童の発達段階に応じ、6年間を通して、段階的・系統的に学びが発展できるように構成されているので、より音楽の力が引き上げられますし、レベルアップにつながるイメージも持ちました。また、児童になじみのある鑑賞曲を、聴いた後で実際に合奏したり歌を歌うという、鑑賞、合奏、歌唱を連携させた授業も展開できます。

さらに、二次元コードでは、音楽づくりにおいて、データを使い、自分で実際に操作することで、自分が作曲した音色やリズムをあわせて聴くことができることも魅力の1つです。それは個別最適な学びをサポートすることにもつながることだと思います。

特に小学校1・2年生までは担任の先生が指導されることもあり、教える側にとっても、教育芸術社のスタンダードな教科書のほうが使い勝手がよいかと思います。

私からは以上です。

○教育長 委員の皆様からそれぞれご意見をいただきましたので、投票に入りたいと思い

ます。

それでは、投票用紙の配付をお願いいたします。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

教育芸術社が5票、以上です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、教育芸術社が過半数の3票以上を獲得いたしましたので、2024年度使用教科用図書、小学校「音楽」は、教育芸術社に決定をいたします。

次に、図画工作について審議をいたします。

投票に先立ちまして、まず私から意見を述べさせていただきます。

図画工作については、「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する」、そういうことが目標とされております。

これを踏まえて、2社の教科書が出ておりますが、開隆堂出版のほうは、写真やロゴなどが視覚的に親しみやすく、子どもたちが自分の考えを広げるような言葉や意欲、関心を引き出すような工夫が感じられました。また、子どもたちが活動している大きな写真とともに、「ひとことアドバイス」などが添えられていて、子どもたちが何かをつくろうという意欲を持ちやすいのではないかと思います。

一方、日本文教出版のほうは、活動手順などに丁寧な説明がありまして、子どもたちが学び方を習得しやすく、調査協議会の報告にもありましたが、専科ではなく、担任が指導する場合でも指導しやすい教科書ではないかと感じました。

これも二者択一ということで迷うのですが、先ほどの音楽と同様に、開隆堂出版のほうは実践的で、説明し過ぎない記載であるため、先生が授業展開しやすい。特に図工専科の先生にはこちらが向いていると思います。言い換えれば、専科でない担任の先生が指導する場合には、その力量を問われることになるかもしれませんが、子どもたちの造形的な見方・考え方を広げたり、想像しようとする態度を養ったりするには、開隆堂出版のほうが無効ではないかと思っております。

以上でございます。

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

○後藤委員 図画工作の授業では、みずから作品づくりに取り組むとともに、友達と交流

しながら、他者の作品のよさを捉えていくことも大切です。したがって、かかわり合って活動する場面や、対話している交流場面が要所にあるものが適していると考えます。

また、音楽科のように、低学年では担任教員が、中・高学年では専科教員が指導することが多いため、いずれの教員が指導するにしても、基本的技能、あるいは用具の安全な使い方といったものが子どもに確実に身につくように、紙面情報だけでなく、二次元コードを活用した動画なども効果的に取り入れられていました。

どちらの出版社もバランスのとれた教科書で、大きな差は感じませんでした。しかし、子どもの感覚や感性を引き出し、主体的な学びを促そうとしているレイアウトなどの工夫は、開隆堂出版がよりよいと判断しました。

以上です。

○森山委員 この教科も2つの教科書からの選択になるかと思いますが、開隆堂出版の「図画工作」の教科書が、特にそれぞれ3つの観点を用いて、児童に親しみやすく示されているという点が大きな特徴だったかと思います。そういう意味でも、実際に使用する場合、開隆堂出版の「図画工作」の教科書が適しているのではないかと判断いたしました。

以上です。

○井上委員 私は、開隆堂出版がいいのではないかと思います。キャラクターを用いたねらいやめあてが明確で、子どもの活動に寄り添った表現になっています。インパクトのあるたくさんの資料が子どもをわくわくさせ、自由な発想を広げてくれるのではないかと期待しております。

私からは以上です。

○関根委員 図画工作におきましては、児童が自分の中にあるものを、言葉以外の手段で表現すること、思い描いたものを見える形にすることで、感性や想像力がどんどん育っていきます。子ども自身がそれに気づけること、そして正解がないことも図工ならではの思いです。ですから、表現や鑑賞活動を通して造形的な見方や考え方を養ったり、感性や想像力を持って自分がこうしたいというイメージを思い切り表現する力を育成するような、その手助けができる教科書と、選んばせていただきました。

各社ともそれぞれ工夫されており、鑑賞や道具の使い方、デジタルコンテンツの内容につきましては、さほど大きな差はありませんでした。

私が思う一番大事なところで、子どもたちが手に取ってわくわくするのはどんな教科書だろうと思いつきながら見ていきますと、開隆堂出版の教科書は、各学年の表紙が鮮やかで造

形的なデザインで、タイトルも学年ごとに特徴があり、思わずページをめくりたくなりしました。児童が生き生きと活動する情景写真や魅力的な作品が大きく扱われ、メリハリのある楽しい紙面が児童のインスピレーションを引き出しやすい構成になっています。全学年の全てのページの下に「片付け」、「ふりかえり」、「他教科との関連」などについての表記があり、また全てが見開きのページレイアウトなので、とても見やすく、指導者にとっても児童にとっても使いやすい教科書ではないかと思いました。

私からは以上です。

○**教育長** 委員の皆様からそれぞれご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

事務局から投票用紙の配付をお願いいたします。

(投票)

○**教育総務課長** 集計が終わりましたので、発表いたします。

開隆堂出版が5票、以上です。

○**教育長** ただいまの発表のとおり、投票の結果、開隆堂出版が過半数の3票以上を獲得いたしましたので、2024年度使用教科用図書、小学校「図画工作」は、開隆堂出版に決定いたします。

次に、家庭の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、まず私から意見を述べさせていただきます。

家庭科では、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成する」、こういうことが目標となっております。

これを踏まえまして、2社の教科書が出ておりますが、私は、開隆堂出版のほうが、東京書籍に比べて、調理や裁縫などの手順が温かみのある挿絵や写真を活用して視覚的にわかりやすく、比較的短めの文章で説明されているところもわかりやすいと感じました。また、有効なデジタルコンテンツが多く掲載されていて、ICT機器を使った授業でも活用度が高いものと感じました。

以上でございます。

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

○**後藤委員** どちらの教科書も課題解決学習の学び方に沿って構成され、それぞれにプロセスのわかりやすい工夫がありました。また、器具・用具の使い方や安全指導等を、教科

書紙面だけでなく、デジタルコンテンツを効果的に使って、わかりやすく学ぶことにも対応できています。さらに、町田市の実態では、専科教員は少なく、担任教員が授業する割合が高いことから、どの教員にとっても指導しやすい教科書ということが求められます。

これらの点から見ますと、両社の教科書はよくできていますが、グローバルな視点や人権上の配慮として、海外の食の紹介や、肌の色の違う子どもや保護者などを写真で登場させるなど、人権上の配慮があることなどの点から、開隆堂出版がよりよいと判断しました。

以上です。

○森山委員 この教科についても2つの教科書からということになりますが、東京書籍の「新しい家庭」、開隆堂出版の「わたしたちの家庭科」の教科書、ともに2年間の学習を1冊にまとめているという特徴があります。また内容についても、具体的に非常にわかりやすく記載されているという点でも、どちらの教科書もそういう特徴があるかと思えます。そういう意味では、双方を比較すると、いい面というか、どちらがいいのかということについては、私は非常に迷いました。

ただし、1点だけ、巻末のページ等に、安全とか衛生について示されているところも、どちらも特徴がありますけれども、具体的に示されていること、あるいは、二次元コードからいろいろと学習を深めていくところで、実際の学習に二次元コードがどのように働くのかということを考えますと、開隆堂出版の「わたしたちの家庭科」の教科書がよりよいのではないかと判断いたしました。

以上です。

○井上委員 私は、開隆堂出版がいいのではないかと考えております。単元の初めに、「なぜ〇〇するんだろう？」という疑問を持たせ、子どもに投げかけた上で学習をスタートさせるつくりとなっており、経験年数の浅い教員でも導入しやすいところがいいと感じました。また、調理実習においては、見開き2ページで見やすく、食品分類表示も色分けされていて見やすいところ、アレルギー対応についても要所要所で行っているところもポイントだと感じました。

私からは以上です。

○関根委員 子どもが家庭の一員であることを意識して、生涯にわたってよりよい生活をしながら自立をしていくための基礎知識や技術を学ぶために家庭科はあると思います。子どもたちが日常の中で、自分でできることがふえ、それを自信や自己肯定感につなげてい

きながら、さらに理解を深めることができる教科書をと考えました。

各社とも見比べてみましたが、それぞれのよさがあります。2社とも安全・衛生に関するページや道具の使い方、そしてデジタルコンテンツの内容も実践的で体験的に学べる工夫があり、とても充実しておりました。

それを踏まえた上で、開隆堂出版の教科書で私がとてもよいと思ったところは、単元の導入時において、「なぜ〇〇するんだろう？」と、生活の中から子どもたちに疑問を持たせ、それを学習へつなげていく構成になっているところです。児童がその課題を解決するための手だてとなる資料や活動も提示されており、問題解決的な学習を進められるようになっていました。

また、実習の流れについても、横1列でわかりやすく提示しており、児童にとって学習の流れが一目で理解しやすい紙面になっているところや、「えいごのまちだ」を掲げる町田市といたしましても、英語表記の言葉選びが丁寧で、より深く学べるものになっているところがよいと感じます。

私の中で決め手となったのは、扉ページの「誕生」から「中学生へ」、そして社会への時間軸の広がりをおろすイラストの中で、家庭科に関する教科の内容や、かかわってきた人たちのこと、そして家庭科を学ぶことでできるようになることなどが紹介されており、児童がこれから先の見通しを持ちながら学習をスタートできるような工夫がなされていたことです。子どもたちがこの導入部分を見たときに、これからはもっと学びたい、もっと知りたいという気持ちが生まれてくれればよいなと思いました。

私からは以上です。

○**教育長** 委員の皆様からそれぞれご意見をいただきましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙の配付をお願いいたします。

(投票)

○**教育総務課長** 集計が終わりましたので、発表いたします。

開隆堂出版が5票、以上です。

○**教育長** ただいまの発表のとおり、投票の結果、開隆堂出版が過半数の3票以上を獲得いたしましたので、2024年度使用教科用図書、小学校「家庭」は、開隆堂出版に決定をいたします。

間もなく正午になりますので、ここで一旦休憩したいと思います。再開は午後1時とい

たします。

休憩いたします。

午後0時 休憩

午後1時 再開

○教育長 再開いたします。

休憩前に引き続き、保健の教科について審議いたします。

投票に先立ちまして、まず私から意見を述べさせていただきます。

保健の教科では、私は、光文書院あるいは Gakken といったところが、写真や挿絵を使ったり、実際に起こりそうな場面を事例に取り上げたりしながら、子どもたちの興味・関心を引く工夫がされていて、学習の進め方のステップもわかりやすく構成されていると思いました。また、両社ともに、第二次性徴のところの体の中の変化のイラストや説明も易しく配慮されたものと感じています。同じく両社ともに、スマートフォンやタブレット端末を使うときの注意とか、インターネットでのトラブルにならないための注意、トラブルになったときの相談窓口などが複数紹介されています。そういうわけで、率直に申し上げて、なかなか甲乙つけがたいと感じております。

以上でございます。

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴いたしたいと思えます。

○後藤委員 各出版社ともに、課題を見つける、考える、調べる、話し合う、説明する、まとめる、学びに生かすといった課題解決学習のプロセスをわかりやすく表現しているものが大半でした。また、第二次性徴にかかわる内容のイラストの表現の適切さや、インターネットやSNSトラブル、タブレットやスマホの使用上の注意、熱中症の予防と手当てなどの内容は、これらも各出版社とも扱っていました。中でも、特に Gakken と光文書院の構成がよく、その中でも Gakken は、課題解決学習のプロセスがわかりやすいこと、不安や悩みへの対処の学習で、いじめについて取り扱っているという点がよりよいと判断いたしました。

以上です。

○森山委員 保健については、先ほど後藤委員からもお話がありましたが、ステップを明確に、例えば気づく、を見つける、調べる、解決する、深める、伝える、まとめる、生かす、あるいは、つかもう、考えよう、調べよう、話し合おう、生かそうという形での構成に配

慮した教科書が非常に多く見られました。特に東京書籍の「新しい保健」、光文書院の「小学保健」、Gakkenの「みんなの保健」等はこの構成が明確に打ち出されていて、学習するのに非常に有効な手だてとして考えられます。総じてどの教科書も同様にわかりやすい教科書の内容と記載の仕方といいますか、その点ではどの教科書も特徴的であったと思います。先ほど挙げたようなところを中心に採択する必要があるのではないかと感じました。

以上です。

○井上委員 私は、光文書院とGakkenがいいのではないかと思います。2社とも、子どもの見通しが立てやすく、スマートフォンやタブレットの使い方、インターネットのトラブルについて取り上げている点がいいと思いました。特に5つのステップで学習内容をつかめ、1項目2ページの構成になっている光文書院が扱いやすいのではないかと考えております。

私からは以上です。

○関根委員 保健の学習では、子どもたちが生涯にわたって健康に生活し、生きていくための資質や能力を身につけて、さまざまな課題や変化と向き合いながら、心も体も健やかに生きるための力を養っていきます。自分のことを知り、自分を大切にしながら、周りの人も大事にできるような子どもたちに育つために、正しい知識が学べる教科書を選びました。

私は着眼点といたしまして、1、課題の解決に向かって児童が主体的に学べるように、学習内容と流れがわかりやすいもの、2、学習の課題に向けて話し合ったり、学んだことについて自分の考えを发表或し、友達の見解を聞いて話し合ったりするような対話的な学習が進めやすいもの、3、デジタルコンテンツの内容が、知識を広げたり、興味や関心に応じて学びが深められるもの、4、けがをしたときの対処法がわかりやすく、段階的に学べるもの、5、いじめについてやSNSの使い方、インターネットのトラブル、熱中症などについての扱いが丁寧で、相談窓口が明記されているもの、これら5つの観点で見るところ、私は、Gakken、光文書院、東京書籍の3社がよいと思いました。

東京書籍は、個人差や自分らしさの記載が随所であり、個人の価値を尊重する態度を養うことができますし、人権についても一番配慮されていました。Gakkenと光文書院は、自然災害や犯罪の防止についての詳しい記述があり、今の時代、特に問題となっているインターネットのトラブルといじめについての具体的な記述があり、とても丁寧に取り上げ

ています。また、性の多様性、現代的な健康問題、感染症、SDGsなど、今の子どもたちに知ってほしい学ぶべきコンテンツがたくさんありますので、私はこれらの教科書から選びたいと思います。

私からは以上です。

○**教育長** 委員の皆様からそれぞれご意見をいただきましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙の配付をお願いいたします。

(投票)

○**教育総務課長** 集計が終わりましたので、発表いたします。

大修館書店が1票、光文書院が2票、Gakkenが2票、以上です。

○**教育長** ただいまの発表のとおり、投票の結果、3票以上を獲得した発行者はございませんでした。2票を獲得しました光文書院とGakken、この2社で、第2回目の投票を行いたいと思います。

委員の皆様の中で改めてご意見等がございますでしょうか。ーよろしいですか。

それでは、投票用紙の配付をお願いいたします。

(投票)

○**教育総務課長** 集計が終わりましたので、発表いたします。

光文書院が2票、Gakkenが3票、以上です。

○**教育長** ただいまの発表のとおり、投票の結果、Gakkenが過半数の3票以上を獲得いたしましたので、2024年度使用教科用図書、小学校「保健」は、Gakkenに決定をいたします。

次に、英語の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、まず私から意見を述べさせていただきます。

英語については、「聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じて、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する」、そういうことが目標となっております。これを踏まえて、今回6社の教科書が用意されております。

町田市では、以前から国の動きを先取りしまして、小学校の英語教育に先進的に取り組んできました。玉川大学と協働で小学校英語のオリジナルカリキュラムを開発しまして、このカリキュラムを活用して小学校1年生から4年生に対する独自の英語授業に取り組んできました。このカリキュラムは、外国の絵本を活用し、英語を使う場面と結びつけて英

語を学べることや、文化の違いを学ぶことができるという特徴を持っております。リズムに合わせた発音練習や英語の歌なども取り入れて、「英語って楽しい」、「英語を使ってみたい」、そう感じることができる町田ならではの授業づくりを進めているところでございます。

私は、これまで進めてきた英語に親しむ、慣れる、楽しむ、そういった内容の活動が、学年が上がるにつれて、子どもたちの学習意欲が減退するといったような状況になったり、昔は中学生になって英語嫌いになったけれども、これからは中学生になる前に英語嫌いになる、そういう状況は絶対に避けたいと思っています。

そういう観点で見たときに、私は、今回の6社の教科書の中では、光村図書出版あるいは三省堂あたりが、子どもたちにとって、また先生にとっても使いやすいのではというふうに感じております。特に光村図書出版の「Here We Go!」は、最初に全体のめあてが明確に示されていて、各単元の活動内容も日本語表記のために、子どもたちにとってわかりやすい構成になっていると思います。

また、調査協議会の報告にもあるように、登場人物のキャラクターに特徴を持たせて、子どもたちが関心を持って学習を進めていけるように工夫されております。何より、間違いを気にせずにチャレンジしてみよう。そういうメッセージ性が感じられまして、英語でのコミュニケーションの楽しさを感じさせ、英語に苦手意識を持っている子どもに対する配慮もあると感じました。

また、有効なデジタルコンテンツが多く掲載されていて、ICT機器を使った授業においても、家庭学習においても、活用度が高いのではないかと感じております。

以上でございます。

それでは、各委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

○後藤委員 小学校英語科は、学校教育に取り入れられてから2度目の採択になると思います。教員も現行教科書を使つての授業に慣れてきたところである。そういう中で、小学校英語科の特性である子どもたちの興味・関心を引いて、意欲的で大変アクティブに学ぶことができる写真や絵で構成されている紙面が効果的ではないかと考えます。

各出版社ともに、ユニットのめあてやゴールを明示し、それぞれに工夫した学習過程を示しており、二次元コードはそれぞれ効果的に取り入れられていると思います。中には書くことを重視し、教科書への書き込みが多い出版社もありますが、苦手な子どもにとっては抵抗があるのではないかと感じました。また、紙面の情報量が多過ぎると感じるものも

あり、バランスよく構成されている紙面のほうがよりよいと思います。

これらの点から、子どもの学びやすさや教員の指導しやすさを考えますと、三省堂あるいは光村図書出版がよりよいと判断しました。

以上です。

○森山委員 今回の教科書も、前回に比べて非常に充実していると感じました。それは、日常的な場面をしっかりと取り上げて、そこで子どもたちに関心を持たせるような教材が精選されているという感想を持っています。

特に三省堂の「CROWN Jr.」、東京書籍の「NEW HORIZON Elementary English Course」、教育出版の「ONE WORLD Smiles」、このあたりの教科書は、挿絵がふんだんに使われて、その中で子どもたちが興味・関心を持ちやすいような工夫がなされていると思いました。加えて、二次元コード等、使用できる動画や音声が非常に充実しているという教科書でもあろうかと思えます。今挙げた3つの教科書がふさわしいのではないかと考えております。

以上です。

○井上委員 私は2社挙げたいと思います。

まず、三省堂は、別冊の「My Dictionary」という簡易的な辞書が特徴的で、調べものをしたいときに、さっと取り出せて、調べたいところにすぐにたどり着ける使い勝手のよさがあると感じました。また、シンプルな導入や、途中まで薄くガイドの字が書いてあるところは、英語が得意ではない子どもへの配慮があり、とてもよいと感じました。

次に、光村図書出版です。こちら間違いを気にせずに、まずはチャレンジしてみようという、英語に苦手意識のある子どもへの配慮を感じました。また、聞き取り手の反応の大切さや、コミュニケーションを重要視しているところが特によいと感じました。

私からは以上です。

○関根委員 小学校でも中学校でも、「英語って楽しい」、「おもしろい」という子どもたちの声を聞きます。小学校で英語が1教科としてスタートしてから何年か経ち、そういう子どもたちが増えることはとてもうれしいことです。しかし、英語を学ぶ最初の時期に苦手意識を感じてしまうと、将来的に聞く、話す、読む、書くの技能を伸ばしていくことが難しくなり、「英語なんか大嫌い」と言う子どもたちが増えるかもしれません。

町田市では、「えいごのまちだ」を掲げながら、小学生のうちに英語の音に慣れ、英語に親しむための体験型学習や、聞く、話す、書くなどを学ぶシステムもあります。5年生

で初めて教科として取り扱われて、教科書と出会うことになるわけですが、将来グローバル化の進む世界へ向かう今の子どもたちにとって、自分の可能性や選択肢を広げるために、その導入として一番ふさわしいものを選びたいと思い、教科書採択に当たりました。

英語に慣れ親しみながら、コミュニケーション能力の素地を養えるものをポイントに見ていきましたが、私は、三省堂と光村図書出版がよいと思いました。

まず、光村図書出版の「Here We Go!」では、ユニットごとに「Goal」というめあてが設定されており、「Hop!」、「Step!」、「Jump!」において、ここで何を学び、最終的にはどんなことができるのかが明記してあり、児童や教師が流れの中で無理なく活動できるようになっています。また調査協議会の報告にもありましたが、コミュニケーションを図る目的や場面、状況が明記されていて、誰に何のために伝えるのかがよくわかります。これは児童の英語コミュニケーション能力を育てるためにとても役立つものだと思います。

また、三省堂の「CROWN Jr.」では、こちらも「HOP」で学習の見通しを持ち、「STEP」で単語や表現を学び合い、最後の「JUMP」で発表をするという構成になっており、学んだことを繰り返し使いながら、段階を踏んで習得できるようになっています。

また、楽しみながら自然に英語が身についていくようなページもたくさんありました。例えば「Hello, World!」では、学校やスポーツ、仕事、各国のお祭りなど、世界の文化にも触れて理解するページがあり、「ABC Fun Box」では、ゲーム感覚で文字や音に慣れ親しむことができます。また、「Try」では、道案内や買い物などの身近な生活の場面での英語表現を学んだり、プログラミングも題材として取り上げ、英語で命令しながらプログラミング的な思考を養うなど、ほかの教科と関連した学習につなげる工夫もありました。

以上のことから、児童にも教師にとっても使いやすく楽しく学べる教科書がよいと思うので、私はこの2社から選びたいと思います。以上です。

○**教育長** 委員の皆様からそれぞれご意見をいただきましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙の配付をお願いいたします。

(投票)

○**教育総務課長** 集計が終わりましたので、発表いたします。

三省堂が3票、教育出版が1票、光村図書出版が1票、以上です。

○**教育長** ただいまの発表のとおり、投票の結果、三省堂が過半数の3票以上を獲得いたしましたので、2024年度使用教科用図書、小学校「英語」は、三省堂に決定いたします。

最後に、道徳の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、まず私から意見を述べさせていただきます。

道徳の教科については、子どもたちに物事を多面的・多角的に考えさせて、道徳的な判断力を育てるということを意識した授業が求められていると思います。具体的に言えば、教科書の中の教材から、子どもたち一人ひとりに、どう考えるか、どう捉えるかを自分で考えさせて判断させる。そういうことを目標にしていると受けとめております。

この目標から考えると、私は道徳の教材には、子どもたちに具体的な生活場面が想像できる身近な話が大事だということと、教材の解説にあまり具体的な詳しい説明を載せ過ぎると、子どもたちみずからの考えを決めつけることになったり、1つの答えに誘導することになったりして、かえって先生方の指導内容が縛られたり、子どもたちも混乱させられるのではないかと考えました。

そういう観点で見たときに、私は、今回6社の教科書が出されておりますが、その中には東京書籍、あるいは日本文教出版あたりが、子どもたちにとって、また先生にとっても使いやすいのではというふうに感じました。

特に東京書籍は、調査協議会の報告にもあるとおり、現代的な学校生活や家庭生活の中での身近な題材がバランスよく取り上げられて、「つなげる」、「ひろげる」のコーナーで、他の学習やふだんの生活とつなげ、考えを深められる工夫がなされています。教材の解説も一番シンプルに最低限の方向性が示されていて、子どもたちの考え方を決めつける、あるいは答えを誘導するようなリード文や発問等がない。もちろん子どもたちの発達段階に応じた教材の配列とか文字の大きさ、挿絵等も適切なものであると感じました。また、いじめや差別について5年生の教科書の中できちんと説明し、子どもたちに考えさせようとしております。加えて、有効なデジタルコンテンツが多く掲載されていて、ICT機器を使った授業においても活用度が高いものというふうに感じております。

私からは以上でございます。

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

○**後藤委員** 各出版社ともに、学び方や内容をわかりやすく示し、子ども主体の道徳科の学びができるように、それぞれの特徴を出しながら構成していました。今回、町田市教育課題であるいじめや、情報モラルにかかわる教材の配列や内容について主な吟味の観点

としました。

まず、いじめにかかわる内容の取り扱いですが、各出版社ともに、学年に応じて、読み物資料や法令、関係図、著名人からのメッセージなど、工夫して掲載しています。その中で、違いの1つに、学習をする時期があります。学年の早い段階での学習が効果的であると私は考えますが、例えば5年生では、1学期の早い時期に位置づけているのが、東京書籍、教育出版、光村図書出版、Gakken でした。また、教育出版では、SNS いじめを取り上げ、現在の子どもたちに必要な内容として学べるように工夫されていました。

情報モラルに関しては、各出版社ともに、携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、インターネット、SNS、ゲーム機などのデジタル情報、紙面での情報提供や著作権などについて、子どもたちの身の回りにある対象について学習できるように工夫されていました。

中でも、子どもたちにわかりやすく提示しているのが、東京書籍と教育出版です。これらの点から、教育出版や東京書籍がよりよいと判断しました。

以上です。

○森山委員 まず、「特別の教科 道徳」ですが、道徳の学習では、「道徳的諸価値についての理解を深める」こと、「自己を見つめる」、「物事を多面的・多角的に考える」、そして「自己の生き方についての考えを深める」、こういうことがねらいとして示されているわけです。

今回は多くの教科書が出されていますが、その中で、特に東京書籍の「新しい道徳」、教育出版の「小学道徳」の2つの教科書が、先ほどの観点からも非常にわかりやすく説明がなされている。具体的に言いますと、現代的な学校の生活とか家庭の生活を身近な教材として取り上げて、その中で児童が道徳についてしっかりと学ぶという仕組みがなされている教科書であると思いました。

加えて、教育出版の場合は、教科書の後ろのほうに補充の教材が載っています。これによりある程度内容が深められたり、本文の中以上に、価値観が高められると思います。いろいろな形での対応ができる教科書になっているのではないかと思います。

以上です。

○井上委員 私は、東京書籍がいいと思います。有名人や外国の話ばかりでなく、生活場面で使えるような身近な題材も多く取り入れており、デジタルコンテンツも充実していて、授業がやりやすいのではないかと思います。また、考えるためのツール、「心のメータ

一」がわかりやすく、自分だったらどうだろうと自然に考えられるつくりがよいと感じました。

私からは以上です。

○関根委員 道徳は、急激に変化していく今の世界の中で、子どもたちが自分の力で切り拓き、生きる力を養うために、とても大事な教科だと思います。そのために、どうやったら自分やみんなが幸せになれるかを考えて、自分以外の人さまざまな見方や考え方を聞き、自分自身を見つめ、自分のよさに気づき、他人と一緒によりよい生き方について考えることができるように導いてくれる教科書を選びたいと思っています。

今回私が道徳の教科書に求めたいポイントは、子どもの心を引き込むような魅力的な題材が選ばれていること、児童の気持ちを引き出し、理解を深めるために、教師の発問が細か過ぎず、シンプルなものであること、現代的な課題であるいじめに関すること、命の大切さを知ること、自己肯定感を高めることが丁寧に扱われているものです。

そういう観点で見えていきますと、私は、東京書籍と日本文教出版がよいかと思います。この2社では、いじめ問題については、身近にあるいじめを扱った教材があり、児童が自分事として考えやすく、また、6年生では法律の観点からいじめ問題を考えるなど、より広い視点を持つような工夫が見られました。

まず、日本文教出版の「生きる力」という教科書のタイトルがとても好きです。子どもたちが手に取ったり、見たりしたとき、「生きる力」を学ぶんだということを再認識できるような気がします。

また、著名な人物の足跡を取り上げた教材では、単にその功績だけではなくて、どんな努力を重ねてきたのかがよくわかり、キャリア教育にもつながるものだと思います。

東京書籍では、いじめられた友達の内心中を推察したり、そのときに自分ができることは何だろうと考えたりするなど、さまざまな角度や視点で考える教材が多く、いじめに関する教材が1学期の早い時期に配列される配慮もありました。

また、環境や防災、安全・安心、情報モラルのカテゴリーにおいても、改めて子どもが一人ひとりで考えなければいけない問題がわかりやすく取り上げられていました。デジタルコンテンツについては、それぞれが教材に即したものであり、デジタルノートもついてるので、教える側としてとても使いやすいという調査協議会からの報告もプラス要因の1つです。

これらを考慮しながら、この2社から選びたいと思います。

私からは以上でございます。

○**教育長** 委員の皆様からそれぞれご意見をいただきましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙の配付をお願いします。

(投票)

○**教育総務課長** 集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍が4票、教育出版が1票、以上です。

○**教育長** ただいまの発表のとおり、投票の結果、東京書籍が過半数の3票以上を獲得いたしましたので、2024年度使用教科用図書、小学校「道徳」は、東京書籍に決定いたします。

以上で小学校の全ての教科についての採択結果が出ましたので、もう一度申し上げます。

国語は光村図書出版、書写は光村図書出版、社会は東京書籍、地図は帝国書院、算数は学校図書、理科は教育出版、生活は光村図書出版、音楽は教育芸術社、図画工作は開隆堂出版、家庭は開隆堂出版、保健はGakken、英語は三省堂、道徳は東京書籍、以上でございます。

以上で議案第14号の審議を終了いたします。

休憩いたします。

午後1時38分休憩

午後1時39分再開

○**教育長** 再開いたします。

議案第15号を審議いたします。本件については学校教育部長からご説明を申し上げます。

○**学校教育部長** 議案第15号「2024年度使用教科用図書（中学校）の採択について」、ご説明いたします。

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条並びに同法施行令第14条及び第15条、町田市立小・中学校教科用図書採択要綱の規定により、2024年度使用の中学校の教科用図書を採択するものでございます。

なお、2024年度に使用する中学校教科用図書の採択につきましては、2022年度検定において、新たな中学校教科用図書の申請がなかったため、前年に引き続き、別表の図書を

採択するものでございます。

1枚おめくりください。

2024年度使用町田市立中学校教科用図書一覧でございます。

説明は以上となります。

○**教育長** 以上で説明が終わりました。

これより質疑に入ります。ただいまの説明に関しまして、何かご質問などございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。——よろしいですか。

以上で質疑を終了いたします。

お諮りします。議案第15号は原案のとおり可決することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○**教育長** ご異議なしと認め、原案のとおり決することにいたします。

次に、議案第16号を審議いたします。本件については学校教育部長からご説明を申し上げます。

○**学校教育部長** 議案第16号「2024年度使用教科用図書（特別支援学級）の採択について」、ご説明申し上げます。

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条、同法施行令第14条及び第15条、学校教育法附則第9条の規定、並びに町田市立小・中学校教科用図書採択要綱に基づき、2024年度使用教科用図書を採択するものです。

特別支援学級においては、文部科学省検定済教科書または文部科学省著作教科書以外の教科書を使用することができると学校教育法附則第9条第1項に規定しております。このことを受け、東京都教育委員会では、特別支援学校や特別支援学級で一般図書を採択する場合の参考となる事項を調査研究資料としてわかりやすくまとめております。教育委員会では、この調査研究資料を参考として、各特別支援学級の実態や児童・生徒の実態に応じた適切な教科書を採択できるように努めていくことになっております。

1枚おめくりください。

次ページからが、東京教育委員会が作成した調査研究資料に掲載されている一般図書の一覧となっております。文部科学省検定済教科書、文部科学省著作教科書、またはこの一覧の中から、町田市内の特別支援学級で使用する図書を教科ごとに1冊ずつ選ぶこととなっております。

説明は以上になります。

○教育長 説明が終わりました。

これより質疑に入ります。ただいまの説明に関しまして、何かございましたらお願いいたします。――よろしいでしょうか。

以上で質疑を終了いたします。

お諮りします。議案第 16 号は原案のとおり可決することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長 ご異議なしと認め、原案のとおり決することにいたします。

以上で町田市教育委員会第 1 回臨時会を閉会いたします。

午後 1 時 44 分閉会